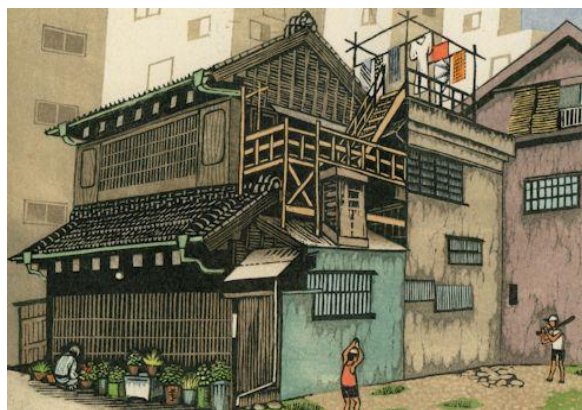


「地図豆」の地図を広げて街歩き

149 銀座・築地の昭和をみつけに (8.5km)

(『東京昭和百景』(山高 登著)銀座・築地歩き)として実施したもの)



こんな景色があったはず (『東京昭和百景』山高 登著)



今も営業中の旅館：築地 7-10-5

【街歩きの概要】

山高登氏の『東京百景』を手にして銀座・築地を歩く。

同書の著者も綴っているように、このあたりの変化は大きなものがあり、時を経て再び訪れることがあれば、その変わりように愕然とすることが多い。それでも、喧騒を避けて一つ裏通りを進めば、著者が「失ったものへの鎮魂歌としたもの」だと語っている、画集のひとこまに出会えるかもしれない。

地図豆のひとりごと

この街歩きが計画された2月、建築家で東京大学教授の隈研吾氏がNHKの「ラジオあさいちばん」という番組で、「建築と死」というテーマで、興味深い話をしていました。それは以下のようなことだった。

（隈研吾さんは、）あるとき東京農業大学学長 進士（しんじ）五十八先生教授から建築を依頼された。そのとき先生が言われたことは、

「隈さん、ちゃんと古びる建物、エイジングする建物を建ててね」と依頼されたそうである。

「先生それ、どういうことですか」と訊ねると、先生は「生物は歳とるのが普通だろ、歳とらなければ化け物だ。建築だって同じなんだよ。ちゃんと歳とっていく建物がいい」と、いわれて、はっとしたとそうだ。

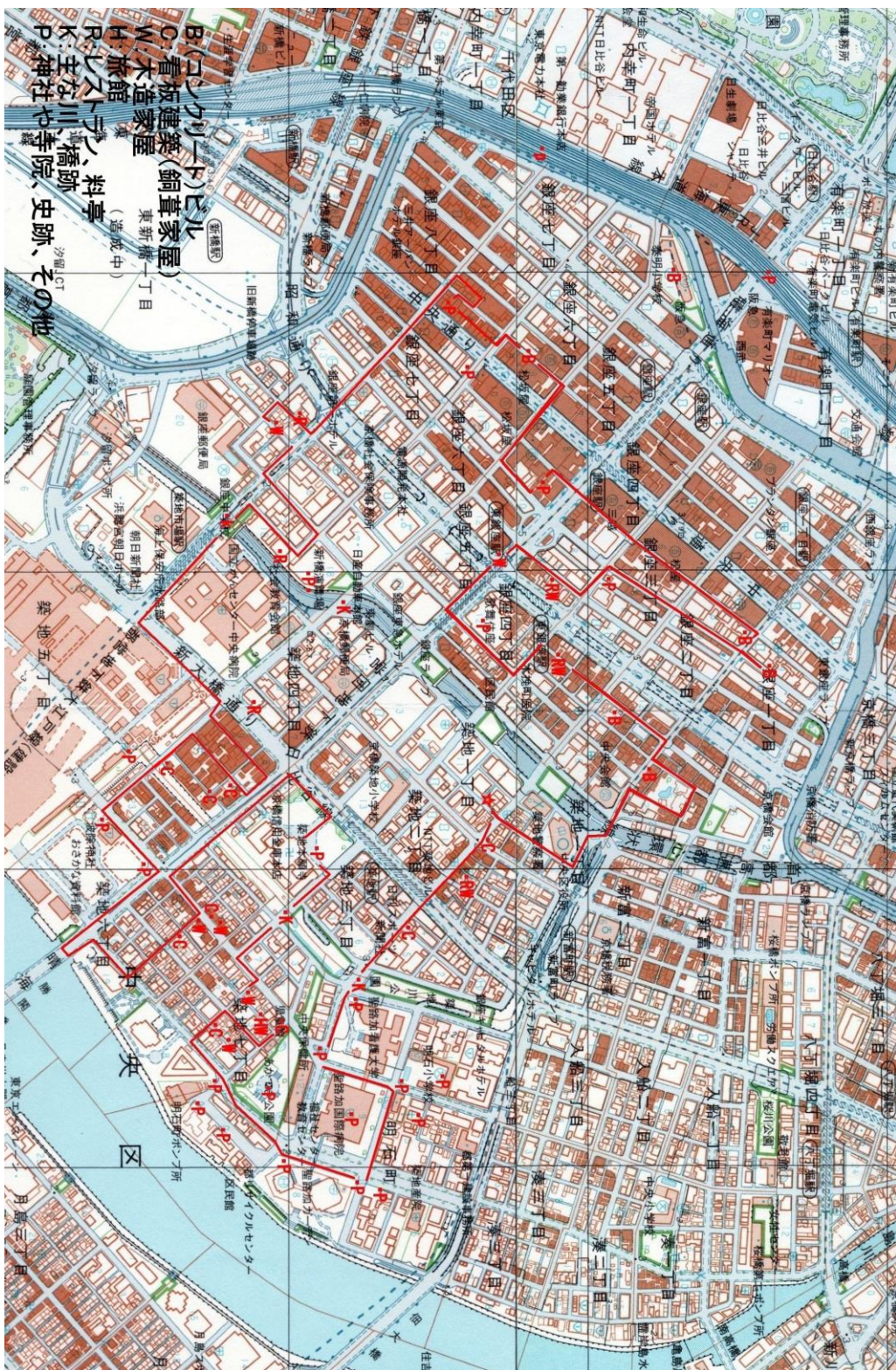
そういえば、ヨーロッパの建物はいい感じに歳とってエイジングしている。石の建物は色が変わり、ひびさえも入っている。いや、日本の木造建築はもっといいエイジングをして、いい感じに色が変わっている。

これまでの20世紀社会の建築物は、これを忘れて、いつまでも若々しくある建築物が要求され、建築家はこれに応えてきた。しかし、どうだろう成熟社会では、建築物にも、いい年を取るような建築物、すなわち年を経るごとに、ほっとさせるような建築物が要求されるのではないだろうか。

そして（隈研吾氏は）、水を吸う石、古びる石を選んで依頼に応えた。それは、庭づくりの石選びと同じ考えだった。」という話。番組の最後には、「成熟社会にふさわしい、建築のかたち、街のかたちを考えるとすることは、「建築と死」を意識することでもある」と結んでいた（NHKのサイトから引用）。

隈研吾氏のこうした言葉を頭の片隅に置きながら、『東京百景』歩きをすることは、石や木づくりの建造物が造る成熟した街並みを連ねる歩きになり、ふだん気にしていなかった何かが見えるかもしれない。

【道順とルートマップ】



【街歩き（観察ポイントと）解説】

○東京メトロ築地駅

○コンクリート建物/閑々堂：銀座 1-22-12

見過ごしそうな建物だが、よく見ると、ちょっとした飾りなどに味わい深いものがある。



閑々堂

○木造家屋/秩父錦：銀座 2-13-14

ビルの谷間の酒蔵秩父錦なら、昭和どころか明治時代にタイムスリップした気分になる。



秩父錦

○「歌舞伎座」：中央区銀座 4-12-15（画集 P42）

歌舞伎座は、明治の演劇改良運動の流れを受けて 1889 年に開場した。この運動の提唱者の一人でジャーナリストの福地源一郎（福地桜痴）と金融業者の千葉勝五郎の共同経営で、1889（明治 22）年、東京市京橋区木挽町に開設された。その後現在まで、4 度建て替えられた。



歌舞伎座

○木造家屋/大野屋：銀座 5-12-3

大野屋の建物はそれほど特徴的ではないが、明治元年に足袋屋として創業した。いまは、主に手ぬぐいなどを商う。

○ビルの上下の朝日稲荷：銀座 3-8-10 大広朝日ビル

銀座は、1612年（慶長17）に幕府が堺の職人大蔵常是に銀貨を鑄造させる銀座役所をここに置いたのが名の起こり。銀座八丁十社の神社のうち二社は私有ビルの上で、年始参り以外は参詣できないから、ふだんは銀座八丁八社めぐりになる。

幸稲荷神社（銀座 1-5）

銀座稲荷神社（銀座 2-6 越後屋ビル屋上 見学不可）

龍光神社（銀座 3-6 銀座松屋屋上）

朝日稲荷神社（銀座 3-8-10）

銀座出世地蔵尊・三囲神社（銀座 4-6-16 三越屋上）

宝童稲荷神社（銀座 4-3-14）

○あづま稲荷神社（銀座 5-9）

かく護稲荷神社（銀座 6-10-1 松坂屋屋上）

成功稲荷神社（銀座 7-5 資生堂本社 見学不可）

○豊岩稲荷神社（銀座 7-8 資生堂ザ・ギンザ裏通りの路地）



ビルの上に本社がある朝日稲荷・小路にある豊岩稲荷

地図豆知識：銀座八丁十社と稲荷信仰

稲荷というのは、稲生（いねなり）から来たという説があるように、元来は穀物・食物の神であり農業を司る神である。稲荷社は農業神であったのだが、人々に永く守られ慕われているうちに火災からの守り神、あるいは商売繁盛、家内安全を祈願するようにもなった。

銀座に稲荷神社が多いのは商人の町であったから。

ちなみに、稲荷の主神である茶枳尼天（だきにてん）が乗っているのが白キツネであることから、神秘的な霊力をもっている動物として信仰対象となった。

○コンクリート建物/奥野ビル：銀座 1-9-8、ヨネイビル：銀座 2-8-20、交詢ビル：銀座 6-8-7

1932年に竣工の奥野ビルの設計者は、同潤会アパート建築部に所属していた川元良一氏。かつては旧銀座アパートメントと呼ばれ、銀座界隈でも屈指の高級アパートだった。昭和初期の趣を残すタイル貼りの外観や、銀座最古の手動式エレベーター、昭和初期の風合いの残る内装が今ではかえってモダンに感じられる。

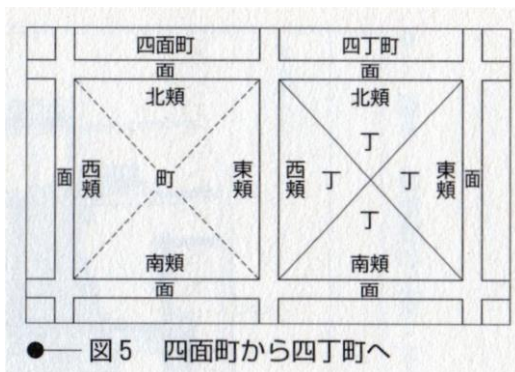
1930年に竣工のヨネイビルを設計したのは、大阪出身で東京帝国大学卒の森山松之助氏。鉄骨鉄筋コンクリート造で、デザインは中世ロマネスク風。直線を強調した帯状の装飾で輪郭を際立たせ、大小のアーチ窓に螺旋模様が施されて軽快なリズムがある。1984年に外壁と窓枠の改装を行った。中央区銀座 7-7 の丸嘉ビル (PIAGET 1929年築) も彼の作品とか。

1929年竣工の交詢ビルは、横河時介の設計による。ここにあった交詢社は、1880年（明治 13）に福澤諭吉が提唱し、結成された日本最初の実業家社交クラブであった。現在はフ

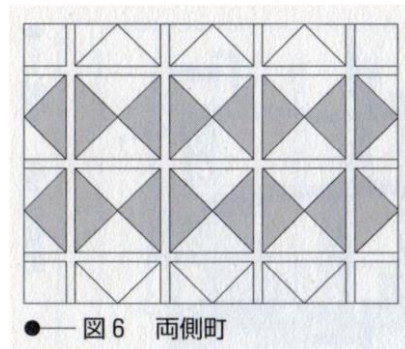
アサード（正面の一部だけ）も保存されている。

地図豆知識：銀座小路と街の成り立ち

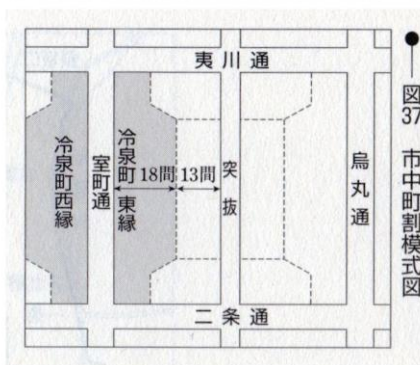
平安京などの、碁盤の目状の街づくりである条坊制では、その街区内の地割は、南北の小路を通して、各宅地は東西からアプローチした（二面町：8世紀以降）。次の段階では、街区四周に開く形状へと変化する（四面町：12世紀後半）。その後、それぞれの面が地域的まとまりを持つ「四丁町」（14世紀末）を経て、道路を挟んだ両側が一体化した地縁共同体の「両側町」（15世紀中）となる



● 図5 四面町から四丁町へ



● 図6 両側町



● 図37 市中町割模式図



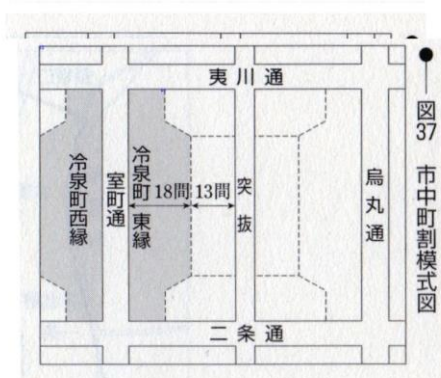
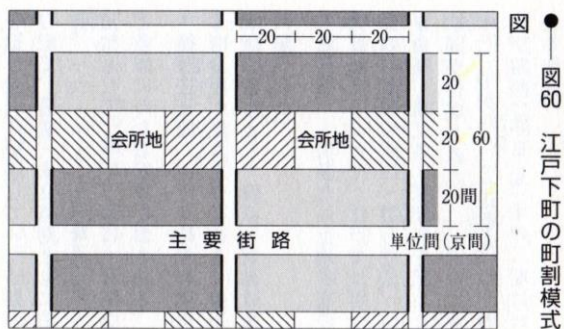
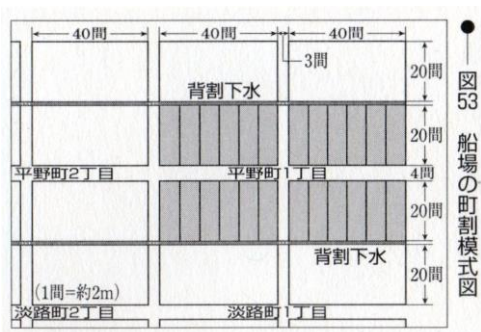
その後、豊臣秀吉の時代になると（16世紀）京都の市街地に短冊状の町割りをほどこした。条坊制地割の街区の裏には未利用地があったので、この中央南北に小路（突抜）を通したのだ。

大阪の町人地船場もまた秀吉の手によって町割りが行われた。辺りは淀川が作る低湿地であったから、水系を整理して埋土による宅地造成をした。その上で、方形の街区とし、背割り下水を界とした両側町（京都とは異なる）を構成した。

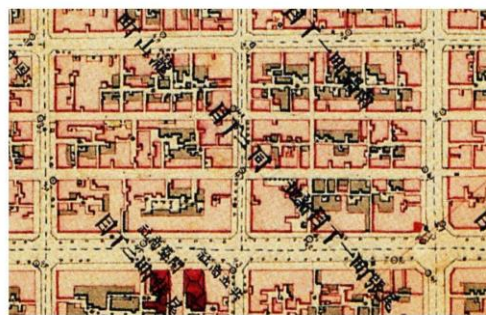
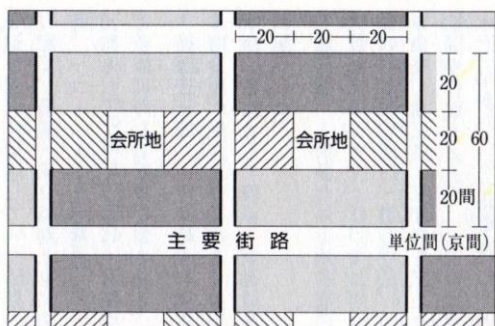
そして、徳川家康が江戸へ入府し、16世紀末町割りなどに着手する。沽券図などから推測すると、当初のそれは秀吉の大阪船場の町割りをベースとし、中央に会所を設ける工夫があった。（1間＝約2m）（主に『町家と町並み』伊藤毅から）

豊岩稻荷神社やあづま稻荷神社へと続く小路は、まさに船場町割り図にあった背割り下

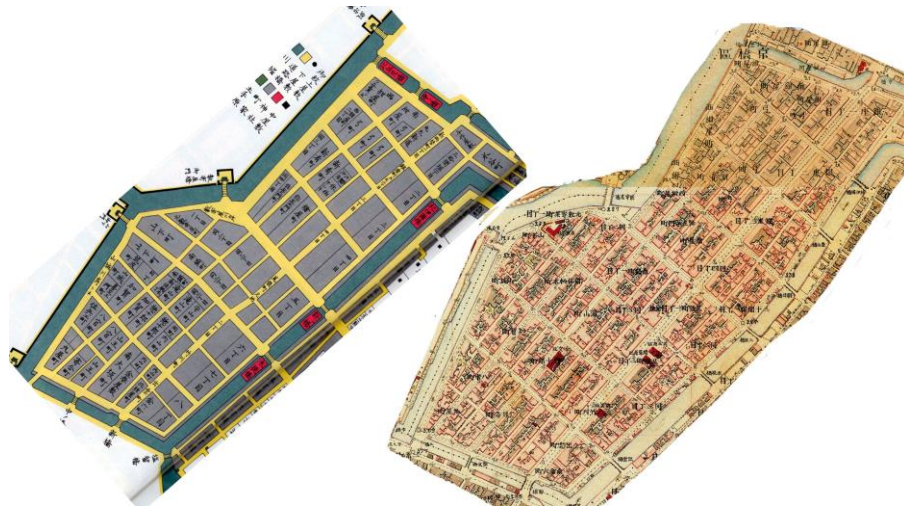
水が変化したものだと思う。



現在の京都（それぞれの町（名）が道路の両側にある）



明治期の銀座（主要街路と小路で仕切られた）



銀座（江戸切絵図と東京の明治期 1/5,000 地形図）

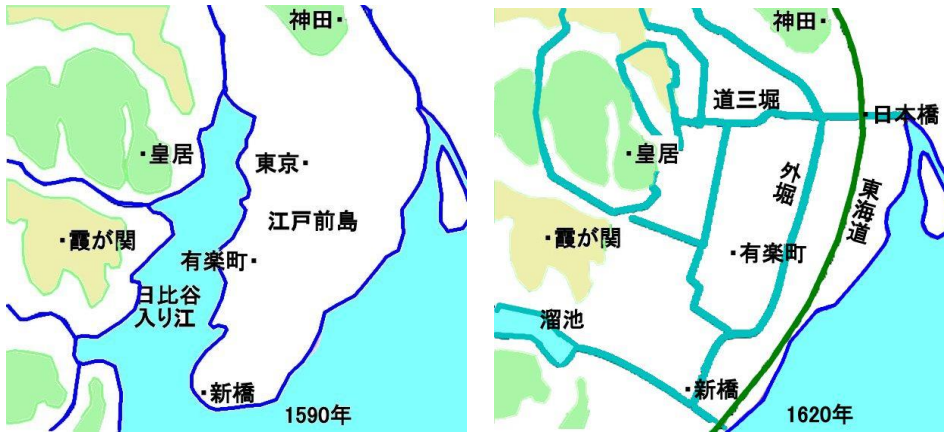


現在の東京の 1/10,000 地形図

地図豆知識：銀座で、ラグーンと砂洲の高まりを感じる

ラグーンは、流砂などによってできた高まりの裏側に閉じ込められた水面、潟のこと。かつて銀座は、日比谷入り江を挟んで浅草方向から半島のような小さな高まり、砂洲がつくる半島（：銀座中央通り）だった。その裏側に伸びる入り江（ラグーン：日比谷）を、江戸期に入って埋め立てたものである。最新のデジタル標高地形図を見ればそのようすが明らかになる。日比谷公園には、その名残である凹地や池が残る。また中央通りを挟んで東西から視線を低くして眺めれば、砂洲の高まりは顕著である。

同例は市川市（JR 市川駅の北から真間の継橋）あたりにも存在する。



江戸前島の歴史



ラグーン（潟湖）「地図を読む」（五百沢智也著 岩波書店より）



江戸前島と日比谷入り江と、よく似た市川砂洲と真間の浦（上が東）
（デジタル標高地形図）

○コンクリート建物/ビヤホール ライオン：銀座 7-9-20

東京銀座の名物ビアホールとして知られる銀座ライオン 7 丁目店。この建物の売りと言えば、1 階内部の幾何学的なデザイン。そして、奥のモザイクタイルの壁画が美しいこの建物は、建築家 菅原栄蔵の設計により 1934 年に竣工したものである。

○新橋演舞場：銀座 6-18-2・金田中：銀座 7-18-17、東京吉兆：銀座 8-17-4 など

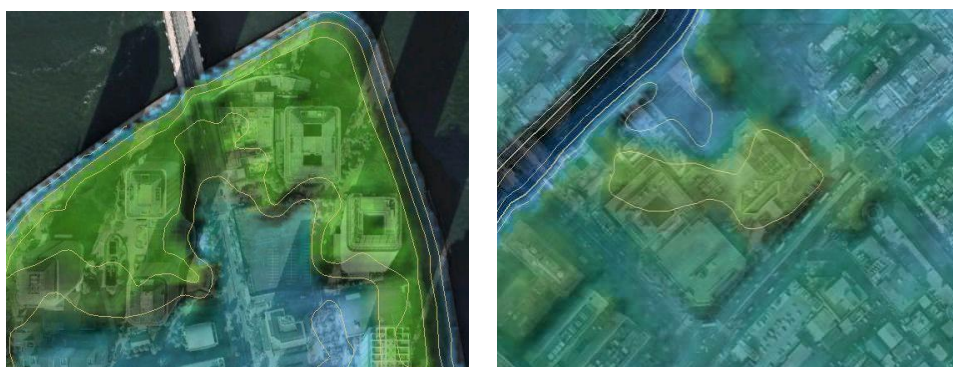
○「築地東劇（旧東京劇場）」（画集 P43）旧建築物は現存しないので訪ねない：中央区築地 4-1-1 東京劇場ビル

東京劇場は 1930（昭和 5）年 3 月に演劇場として開業。六代目 尾上菊五郎と十五代目 市村羽左衛門、六代目 尾上梅幸の 3 大役者がこけら落とし興行を飾った。築地に一際目立つ重厚な建物で知られ、歌舞伎や軽演劇が上演されていた。歌舞伎座が東京大空襲で焼亡し、1951（昭和 26）年に再建されるまでは、東京の歌舞伎の中心だった。（ウィキペディア）

◎地図を広げて築地の変遷を見る

○国立がんセンターあたり

佃島の北にある「石川島」は、早くから砂洲が発達していた地であり、江戸時代には「人足寄場（懲役場）」があった。現在でいう「刑務所」である。その後南へ埋め立てが進み佃島となる、幕末期「石川島」には、造船所が建築され「石川島造船所」と命名されて、のちに「石川島播磨重工（IHI）」となる。現在高層マンションが立ち並ぶこの辺りの標高は、デジタル標高地形図などを見ると約 7m もある。橋の建築や新しい土砂埋立てによるものと思われる。人形町や佃島の標高は 1m～2m、銀座でも 4m ほどだから、その意味では特異な地点といえる



中央大橋南たもと国立がんセンターあたり（の高まりを現地で確かめる）

さて、東日本大震災以降、埋め立て地での液状化が一般者にも注目されるようになった。

液状化が起きる条件は、①砂の層があり、②地下水位が浅いところ、そこへ強い地震が襲うと起きる。①と②の条件がそろうのは、海岸や河川跡、海浜や湖沼跡などの埋め立て地である。砂地だからいけないというものでもない、地下水が関連するから河川周辺の自然堤防のようなわずかな高まりでも避けられることもあり、一方で後背湿地は危険となる。関連して埋め立て工事からの経年も影響するのは当然である。対策としては、高層建築に限らず、建築物に応じたパイル支持などが必要になる。

ちなみに、東京周辺の地下には東京礫層と呼ばれる 20～30 万年前の砂礫層が走っている。この礫層は西から東へと低下していて、武蔵野台地に位置する新宿副都心の超高層ビルなどでは、6～7m 下にある東京礫層を基礎にすることを容易に可能にしている。しかし下町低地では、同礫層の上に有楽町層と呼ばれる軟弱な沖積層が 70m もの厚さで覆っているから、超高層ビルを建設することは容易ではない。

東京スカイツリーを支える 3 本足の杭の長さは 50m もある。しかもその杭は、上下方向や左右の力に耐えるような工夫もあるのだという（突起の付いた「ナックル・ウォール」と巨大な壁状になった「地中連続壁杭」）。

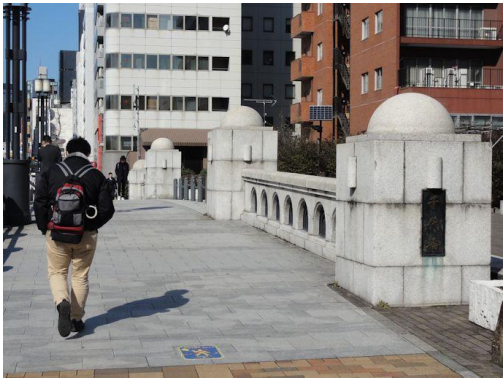
先の震災での仙台市郊外の宅地造成地内における地盤崩壊も、埋立てか、削土かの違いが大きい。同じ地震震度であっても（締固めが十分とならない）谷を埋めた地盤だけ危険度が高くなるのは、堅固な構造物に新たに増築された部分や L 字型マンションなどと似るところがある。

そして、液状化に限らず土砂崩れなども、震源地から遠い地域で、まだら模様で発生したことから、自らの財産を守るために、土地の性状についての関心が高まり、旧版地図や空中写真、はては古地図にまで興味を示す結果となった。

土地の性状を知るための参考になる地形図としては、（主要河川ごとに整備されている）「治水地形分類図」、（主な平野部で整備されている）「土地条件図」、（地盤沈下地帯で整備されている）「地盤高図」、（主な平野部で整備されている）「1:25,000 デジタル標高地形図」「数値地図 5m メッシュ（標高）」「都市圏断層図」などがある。古い地図類としては、や明治初期に旧陸軍が作製した関東地方対象の「第一軍管地方二万分一迅速測図」、「旧版地図」と空中写真がある（が、判読にはやや専門知識が必要になる）。

○海軍兵学寮跡：中央区築地 5-1-1（国立がんセンター 工事中）

徳川幕府は、築地の旧広島藩邸跡に軍艦操練所を開所した（1857 年 安政 4、名称は軍艦教授所、軍艦操練所、軍艦所、海軍所と変遷する）。明治政府は、その「軍艦操練所」を引きつぐ形で、1869 年（明治 2）に、海軍操練所を開所した。翌年海軍兵学寮、1876 年海軍兵学校と改称し、1888 年には広島県江田島に移転した。1934（昭和 9）年旧地を記念するため、この碑が建てられた。なお、1871 年に竣工した校舎は海鼠壁に尾根瓦を配した建築様式で人々の矚目を集め、のちの海軍大学校の校舎として使用された。



千代橋と采女橋

多くの運河は、東京オリンピックを期に埋め立てられて道路になった

○橋梁/千代（せんだい）橋（1926（大正15）年06月築地川）：銀座7-8先、采女橋：銀座6-18-1

千代（せんだい）橋は、大正15年06月竣工で築地川にかかる。

采女橋は、1930（昭和5）年10月竣工で築地川にかかる。

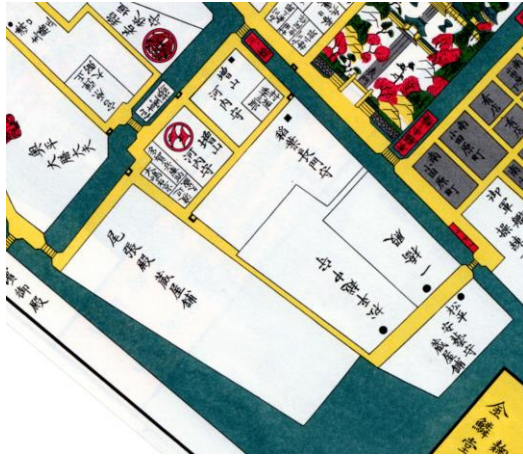
○看板建築・コンクリート建物など/築地場外市場に多数ある。



築地場外市場 園正寺など

（かつては本願寺境内であった場外市場には、いくらか末寺が今も残り、上を見ながら歩くと？ 多くの発見があるはず。とくに、園正寺の建物群？は、「銀座小路と街の成り立ち」で述べた、棧敷や町家の発達に関連するようなところもあって興味深い）

○海軍発祥の地・「旗山」記念碑（魚河岸水神社）・経緯度基点銅板碑：中央区築地5-2-1



「江戸切絵図」(1861)



「五千分の一東京図」(1884)



1/10,000 地形図 (1909)



備前橋

地図豆知識：海軍発祥の地で経度を測る

維新後、幕府の軍艦操練所の地(今の中央卸売市場)は海軍省の管轄に置かれ、海軍省や海軍操練所(のちの海軍兵学寮、海軍兵学校)が設置された(1869年 明治2)。この地は松平定信の下屋敷「浴恩園」のあったところである。1872年(明治5)海軍本省が旧尾張藩邸に置かれると、浴恩園内の築山の上に「海軍卿旗」が掲揚された。この旗を見て人々はこの山を旗山と呼び、現在も海軍発祥の地として”旗山”と刻まれた石碑が水神社前に建っている。

その後水路部の前身である海軍水路局は、その年海軍中佐柳樽悦により、当時既知であった横浜英海軍病院構内の測点の経度をもとに、海軍省敷地内にある賜山旗標竿(賜山の一部が旗山)との関連を測量し、これをその後の測量の基点とした。



旗山碑

○経緯度基点銅板碑：中央区築地 5-3-1

海軍による1915(大正4)年から1916年にかけて行われた経度測量の東京での観測地点である旧水路部天測室が、関東大震災後の区画整理より、東京中央卸売市場入り口交差点のほぼ中央に位置することになった。東京市と水路部は、この記念すべき地点を保存するため、1933(昭和8)年12月に当該地点の路面に標識を設置し、水路部構内東隅の外壁に由来を刻んだ銅板碑を設置した(ということが、東京中央卸売市場入り口壁に碑として残されている)。



波除神社 獅子頭

○波除神社 獅子殿：中央区築地 6-20

明暦の大火後、築地の埋め立てが行われたが、荒波の影響で工事は難航した。その最中のある晩、光を放ち漂う御神体が見つかり、1659（万治2）年、現在地に社殿を建て祀った。その後、波が収まり工事が順調に進んだことから、以降厄除けの神様として信仰を集めることとなった。

巨大な獅子頭も数十対奉納され、これを神輿の様に担いで回ったのが現在に続く伝統行事「つきじ獅子祭」である。現存は、1990（平成2）年に再興されたもの。

あたりは、天下の名園とうたわれた浴恩園があったところでもある。浴恩園は、1792（寛政4）年、白河松平定信が隠居したところ。

○軍艦操練所跡：東京都中央区築地 6-20 築地市場駐車場

1857（安政4）に、幕府が旗本や御家人を対象として、軍艦教授所（総督永井玄蕃頭）を開講したところ。ここでは新式の訓練が施され、洋式海軍の伝習が行われたが、二度の火災にあい、1867（慶応3）年浜御殿（今の浜離宮）へ移った。翌年、担当の英人教頭トレシーが江戸を去ったため伝習は名実ともに休止された。

幕府の「（築地）軍艦操練所」からは、初代海軍卿となった勝海舟をはじめ、小野友五郎（航海長、軍艦操練所教授）、榎本武揚（中将 海軍卿）、など、近代海軍の発展に寄与した多くの俊才たちが巣立った。

あたりには、1868（明治元）年に建てられた外国人用旅館、築地ホテル館があった。

○かちどきのわたし碑：中央区築地 6-20 勝鬨橋橋畔

明治中期、月島は工業地帯として活況を呈し、月島の渡しは徹夜渡船を必要とするまでになっていた。このため、1905（明治38）年、旅順陥落祝捷会に際し、京橋区の有志は新たな渡船場を開設し、戦勝にちなんでここを「かちどきの渡し」と名付けた。この渡しは1940年6月、勝鬨橋完成と同時に廃止され、今は石碑が建てられている。

○勝鬨橋：中央区築地 6-19 先 勝鬨橋（画集 P47）

国指定重要文化財（建造物）建設年 1940（昭和15）年

二つのアーチと船が往来出来るように閉鎖する部分からなっている。1970（昭和45）年から開かない橋となった。

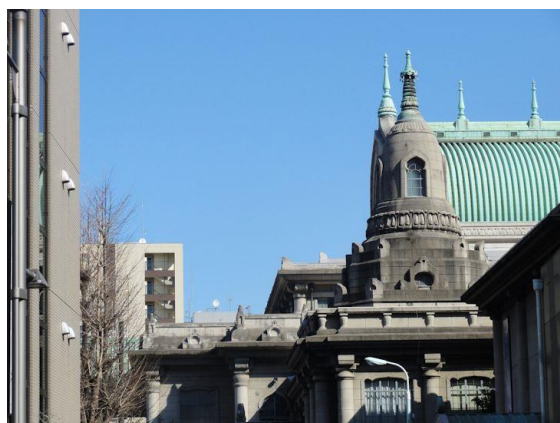
○築地本願寺：中央区築地 3-15-1 酒井抱一墓・九条武子夫人歌碑・土生玄碩墓ほか

築地本願寺は正式名を本願寺築地別院といい、浄土真宗本願寺派の関東における拠点である。ビルに囲まれた境内に、日本の寺院としては異色の古代インド仏教様式の本堂が構

える。緑青色の半円型の屋根をもち、左右にはインドの仏塔を思わせるような塔が立つ石造りの堂である。1923（大正 12）年の関東大震災で江戸時代の本堂が焼失、1934（昭和 9）年に、西本願寺代 22 世宗主 大谷光瑞と建築家の伊藤忠太によって建てられた。二人の出会いが生み出した稀有な建築物である。

築地本願寺のある地はもともと海だったが、江戸時代に寺を建てるために埋め立てられた。埋め立てには真宗門徒だった佃島の漁師が協力したことから、本堂の賽銭箱は佃島の門徒が寄進したものである。

また、寺のそばには東京の食を支える築地市場がある。かつて市場は、日本橋にあったが関東大震災で倒壊、1935（昭和 10）年築地に移された。さらに新しい市場の門前には場外市場がつくられたが、そこはかつて築地本願寺の寺内町だったことから、いまま店の間に寺や墓所が点在している。



どこから見ても？築地本願寺

地図豆知識：築地本願寺本堂

独創的な本堂は、大谷光瑞と伊藤忠太に共作ともいえる建築である。本堂を設計した伊藤忠太は、明治神宮や靖国神社遊就館を手掛けた稀代の建築家。彼は若い頃、法隆寺の建築の起源に興味をもち、アジア や中東、ヨーロッパを放浪していた。

一方、大谷光瑞は西本願寺の第 22 世宗主。彼は仏教の起源を探るべく、中央アジアやインドに学術探検隊を派遣していた。自ら参加することもあったという型破りな宗主だった。その探検隊の一行と伊藤が出会い、やがて大谷と伊藤は交流を深めていく。そして生まれたのが築地本願寺の本堂なのである。

広々とした堂内は畳敷きではなく椅子が並ぶ。「日本人は正座から椅子に座る生活に変わる」と考えた大谷の発案だという。天井にはシャンデリアが下がり、出入口の上部には教会のようにパイプオルガンが置かれている。まるで洋館のようだが、内陣は桃山時代の様式が取り入れられ、阿弥陀如来像を安置。欄間には富山県井波の職人による華麗な彫刻が施されている。さまざまな様式が融合した異空間だ。また、堂内の随所には現実とも空想と

もつかない動物の彫刻が見られる。

伊藤が創造したものであり、中国やインドで知った仏教観が強く反映されているという。再建当初はその異形から門徒の反発も在ったが、現在では都心のなかで強い存在感を放っている。

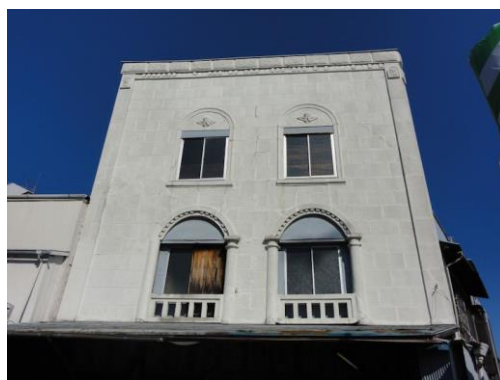
○築地川

本願寺の横を流れていた築地川、現在は場外市場のある場所となるが、場外市場内のコインパーキングに行くと、川だったころの護岸の石垣を間近に見ることができる。また、築地川公園多目的広場はちょうど築地川が軽子橋近くのほぼ直角に曲がっていた部分が公園になったもので、川の形をよく留めている。

○看板建築/民家：中央区築地 6-6-5

○木造家屋/民家：中央区築地 6-6-11、木造家屋/民家：中央区築地 6-7-8

○看板建築/民家：中央区築地 6-12-8、看板建築/民家：中央区築地 7-10-1

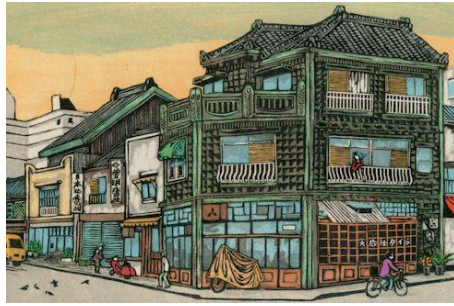


大正時代の面影、看板建築の「細越商店」と「喫茶ドッポ」（築地7）

本体は木造の看板建築（築地 4-14-2）

地図豆知識 看板建築

看板建築は関東大震災以降の商店建築の一種で道路に沿った側に看板のような壁を持った建築物で木造モルタル塗り又は銅板張り、屋根もまた銅板葺きの建物のこと。路上観察学会員の東大生産技術研究所の藤森照信氏が命名した。



『東京昭和百景』山高 登著)

このあたりでは、看板建築だけでなく、注意深く観察すれば「路上観察学（会）」をする者が喜ぶ構造物も多く見かけられるはずだ。

看板建築は、関東大震災後に店などに用いられた建築様式で、建築史家藤森照信が命名したもの。典型的なものは木造2階建ての店舗兼住宅で、建物前面を平坦として（軒を前面に出さない）モルタルや銅板で仕上げ、装飾をつける。ちょうど看板のような平坦な壁を利用して、しばしば自由なデザインが試みられたため、看板建築と命名された。建築物の造作に商店の「看板」を作りつけたものではなく、また、看板建築の平面は看板・広告スペースとして用いられるものではないことに注意。関東大震災（1923）後の東京では、屋根裏部屋を造った例が多い。

江戸時代以来一般的だった商店（店舗兼住宅）は、軒を大きく前面に張り出した「出桁造」と呼ばれるものであり、立派な軒が商店の格を示していた。関東大震災後の復興では土地区画整理事業を実施し、道路幅を広げたが、それぞれの敷地は減歩により面積を減らさざるをえず、建物の軒を出すのは不利であった（公道上に軒を出せば違法建築である）。また、耐火性を向上させるため、建物の外側を不燃性の材質（モルタル、銅板など）で覆う必要があった。加えて、庶民層の間にも洋風デザインへの志向が強くなってきていた（これに先行して、震災後の銀座などでは奇抜なデザインのバラック建築が建てられていた）。こうした条件が重なり、震災復興の過程で大量の看板建築が造られることになった。看板建築は擬洋風建築が大衆化したもの、という見方もできる。

看板建築は外観こそ洋風に見えるが、店の中に入るとタタキの奥に茶の間があるような昔ながらの間取りがほとんどで、中に暮らす人間の生活は急には変えられなかったことが窺える。なお、屋根裏部屋も敷地面積が狭くなったための苦肉の策であった。

看板建築の他所の例として、茨城県石岡市の「十七屋履物店（左）」と「久松商店（右）」がある。十七屋はモルタル塗りで左官細工に凝ったもの、久松商店はモルタル塗りの上に銅板を葺いたもの。石岡大火（1929年）の後に建てられた。いずれも登録有形文化財。

その後次第に地方にも看板建築を真似た商店が造られるようになった。

看板建築のほとんどは名もない大工棟梁が建てたもので、学問的に考察されることはなかった。藤森照信（当時大学院生）が明治初期の擬洋風建築に通じる民間の系譜の建築として

着目し、看板建築と命名して1975年の日本建築学会大会で発表した。当時はこのような不真面目な建物を対象にすることに批判の声もあったが、次第に用語として定着するようになった（『建築探偵の冒険 東京編』参照）。

看板建築は、現在も東京を中心とした広い範囲で見られるが、老朽化により急速に減りつつある。一部、野外博物館（江戸東京たてもの園）に移築されたり、登録有形文化財として保存されているものもある。

亀戸香取勝運商店街（東京都江東区）では「昭和30年代」をキーワードに、活気ある商店街を再現しようと、街並みをレトロな看板建築に改造している（区の「観光レトロ商店街モデル事業」）。（主に、ウィキメディア）

ちなみに、路上観察学会（とは、路上に隠れる建物（もしくはその一部）・看板・張り紙など、通常は景観とは見做されないものを観察・鑑賞する団体。藤森照信（建築史家）、赤瀬川原平（画家、小説家）、南伸坊（イラストライター）、林丈二（デザイナー、作家）などがメンバー）。（主に、ウィキメディア）

◎地図を広げて築地・明石町と佃島・月島の変遷を見る

江戸切絵図と明治期の地図などの時系列に用意された地図を広げて、築地・明石町と佃島・月島あたりを例として、その特徴点を探しながら変遷を読んでみると、誰にでも以下のようなことがわかるだろう。

○江戸切絵図（1861 文久元年）

- ・築地・明石町は、大名屋敷と侍屋敷（白抜き）が大半を占めている。
- ・町人地（灰色）は、当時の軍艦操練所の周辺（のちの勝鬃橋たもと）の海辺や運河や川縁に集中している。この範囲外のことだが現京橋・銀座は町人地だった。
- ・現の場外市場のあたりまで築地本願寺の境内となっていた。
- ・船松町の渡し（佃島渡船場）の先には、佃島漁師町と石川嶋御用地（監獄）だけの小さな島があるだけだ。
- ・海岸線や運河の形は、そのまま明治に引きつがれている。
- ・隅田川の船松町・本湊町から佃島を結ぶあたりに、「渡シバ」（佃島渡船場）がある。



江戸切絵図 (1861)

○「五千分の一東京図」(1884 明治 17 年)

- ・一橋殿あるいは稲葉長門守屋敷跡地は、すべて海軍関係施設となっている。
- ・新栄町・新湊町（現明石町）には、米国公使館、海岸女学校、天主教会、天主教学校、英和学校などの文字が見える。
- ・現築地場外市場のあたりは、築地本願寺の境内のままで末寺が並んでいる。
- ・その他の大名屋敷や侍屋敷の多くは、一般住宅地となったが、旧大名屋敷内にあった築山や池がまだ随所に見られる。
- ・多くの水路や橋は、切絵図当時のままである。
- ・石川島や佃島もほぼ切絵図当時のままだが、その南に砲台らしきものがあり、さらに南には干潟が長く伸びている。隅田川の船松町・本湊町から佃島を結ぶ、佃島渡船場がある。

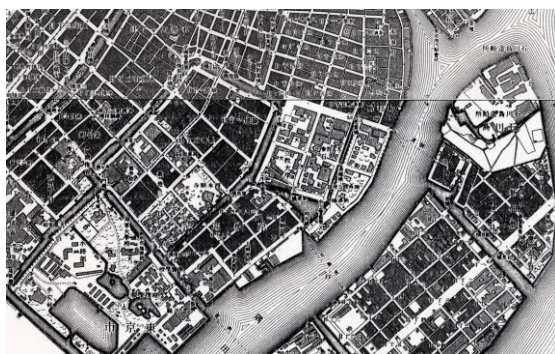


「五千分の一東京図」(1884)

○1/10,000 地形図 (1909 明治 42 年)

- ・海軍関係施設は、そのまま充実が図られて、軍関係施設が立ち並ぶ特別な区域となっている。

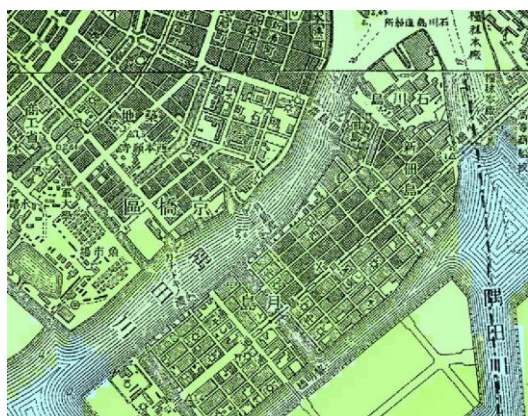
- ・明石町には、瑞典国（スウェーデン）公使館、立教大学、工手学校などの文字が見えるなど、ここも独特の町並みであることが感じられる。
- ・築地本願寺に末寺が並ぶ様子に変化はない。
- ・旧大名屋敷内にあった築山や池は一部を残して消滅しているように見える？
- ・多くの水路や橋は、切絵図当時のままである（1967年の地図では埋立てが開始されている）。
- ・石川島監獄の跡に造船所が開設され、佃島の埋め立てが広範に進み、住宅地となっているものの、橋は架かっていない。
- ・隅田川の上流から順に、佃渡、月島渡、関渡がある。



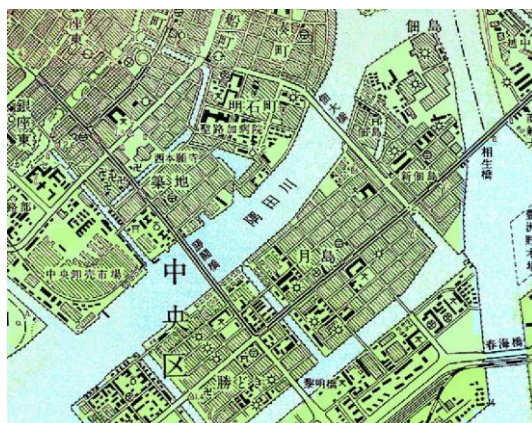
1/10,000 地形図（1909）

○その後

- ・1932年の地形図では、佃島に橋が架かり（相生橋 1903 明治36）、都電が走る（1923 大正12年）。その南にも埋め立て地が広がる。運河の埋め立てが始まっている。隅田川には、佃渡、月島渡、カチドキ渡がある。
- ・1967年の地形図では、勝鬨橋なども架かり（1940 昭和15年）、渡しは廃止。都電は周回している（1947）。運河は都心方向から順に埋め立てられている。



1/25,000 地形図（1932）



1/25,000 地形図（1967）

○月島の渡し跡：中央区築地 7 丁目 18 先

○佃の渡し（画集 P53）中央区佃島 1 丁目 11-4 佃公園内 佃の渡し（跡）東岸
1644（正保元）年、徳川家康が摂津の漁民を呼び寄せて佃島を築造した。

佃島の渡船はその翌年に始まり、以降、明治、大正を通じて欠くことのできない交通機関となっていた。1964（昭和 39）年、佃大橋の完成により廃止となり、今は堤の脇に碑が建てられている。ここの岩壁にも、明治初期にイギリス測量技術の影響を受けた「不」文字状のものを構造物に刻んだ「凡号水準点」が刻まれていたのだが、現存しない。

○史跡/シーボルト胸像：明石町 7-2 あかつき公園

聖路加国際病院に近いあかつき公園には、シーボルト胸像がある。ここが、江戸蘭学発祥の地でもあり、彼の娘イネが築地に産院を設けたこともあって、この地に建てられた。

○史跡/工学院大学学園発祥の地：築地 7-3-10

○木造家屋/旅館：築地 7-10-5、木造家屋/濱野家：築地 7-10-8、木造家屋/民家：築地 7-14-6

○看板建築/民家：築地 7-14-14

○カトリック築地教会：中央区明石町 5-26

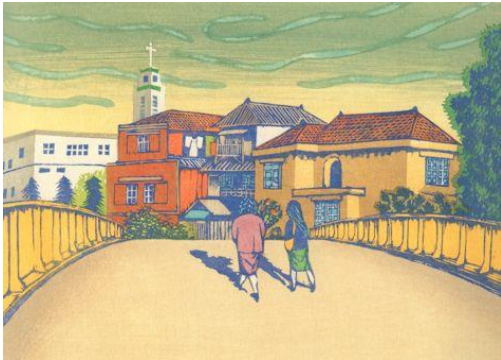
都選定歴史的建造物 建設年 1927（昭和 2）年

カトリック築地教会は、1871（明治 4）年にパリ外国宣教会のマラン神父が、鉄砲州の稲荷橋付近の商家を借りて開いた「稲荷橋教会」がその前身とされる。

1874 年、神父は宣教会の名義で築地居留地 35・36 番を借り受け、ここにゴシック様式の聖堂が献堂されたが、この聖堂は関東大震災で焼失し、現代の現在の聖堂が昭和 2 年に再建された。聖堂は石造りに見えるが、実は木造建築で、壁面をモルタル塗りとしている。

また、旧聖堂で使用された鐘は、1876（明治 9）年にフランスのレンヌで制作され、当時の司祭であるルマレシャル神父から「江戸のジャンヌ・ルイーズ」と名付けられたもので、現在も教会に保管されている。

教会聖堂と鐘は、かつて外国人居留地のあった明石町に残された貴重な文化財として、中央区民文化財に登録されている。（改装中）



築地川公園方向から聖路加病院方向を見る。(『東京昭和百景』山高 登著 画集 P49) :
中央区築地 3 丁目 6-? 築地川公園

この風景は、ここ辺りからからだろうかとして訪ねるといい。

○聖路加国際病院トイスラー記念館（チャペル及び付属する旧病棟その他）：中央区明石町
9-1

都選定歴史的建造物 建設年 1933（昭和 8）年 設計者 レーモンド、バーガミニ、フ
ォイエルシュタイン、居留地の名残をとどめる明石町のシンボル。



聖路加国際病院

○史跡/芥川龍之介生誕の地、立教学院発祥の地、立教女学院 築地居留地 校舎跡記念碑、
女子学院発祥の地：明石町 10（聖路加国際病院）

1813（明治 16）年ごろ、この付近（当時の京橋区入船町 8-1）に「耕牧舎」という牧場
があった。作家芥川龍之介（1892～1927）は、1892（明治 25）年 3 月 1 日、その経営者
新原敏三の長男として、ここに生まれた。

龍之介は誕生後 7 か月にして、家庭の事情から母の長兄芥川道章に引き取られ、本所区 小
泉町（現、墨田区両国三丁目）に移り、12 歳の時、芥川家の養子になった。東京帝国大
学在学中から文筆に親しみ、夏目漱石の門に入り、「地獄変」、「羅生門」、「河童」、「或阿
呆の一生」など、多くの名作を遺したが、1927（昭和 2）年 7 月 24 日、35 歳で自害した。

○史跡/浅野内匠頭邸跡：中央区明石町 10・11 地域、「蘭学事始の地」：中央区明石町 10 先、「慶応義塾大学発祥の地」：中央区明石町 10 先

聖路加看護大の西南端には浅野内匠頭邸跡碑があって、その先の築地川公園の下には、中止された高速道路に関連する入口を塞がれたトンネルが見える。

○史跡/青山学院記念の地碑：中央区明石町 6-26、女子聖学院発祥の地碑：中央区明石町 6-24、明治学院発祥の地：中央区明石町 7、指紋研究発祥の地：中央区明石町 8 先、運上所跡（東京税関発祥の地）：中央区明石町 14-19（水たき 治作）

○アメリカ公使館跡と石標：中央区明石町 8

アメリカ公使館は 1859（安政 6）年ハリスにより港区元麻布 1-6（麻布十番）善福寺に開設されたが、1875（明治 8）年 12 月築地の外国人居留地内のこの地に新築され、はじめて形容を整えた。のち 1890（明治 23）年 赤坂の現在地に移転され、現在の大使館となっている。

最後の移転により、この地には 8 個の小松石の石標が残された。石標には、白頭鷲、星条旗、星の 3 種類の彫刻が施されており、白頭鷲はアメリカの国鳥であり、星条旗に彫られた 13 の星は同国初期の 13 州を示す。8 個の石標のうち 3 個は 1884（昭和 59）年 10 月に日米友好のシンボルとして、赤坂のアメリカ大使館に寄贈され、現在同大使館の前庭に設置されている。残る 5 個の石標は、築地の居留地時代を伝えるものとして中央区文化財に登録されておりうち 3 個をここに、2 個を聖路加ガーデンに設置した。

○築地居留地跡：中央区明石町 9

明治政府は、神奈川条約(1854)にしたがって、明治初年に築地明石町付近を外国人居留地とし、交易を自由にした。以来、この付近は、洋風文化輸入の拠点となった。居留地内は一種の治外法権で、外人による不法行為も相次ぎ、不平等条約改正は国民の悲願であった。居留地は 1899（明治 32）年になってようやく廃止された。

居留地として築地が選ばれた理由は、通称「海軍原」と呼ばれた空き地があって、運河や木戸によって市街とは孤立して外国人保護には都合が良いと考えたからである。しかし、木戸は間もなく取り払われ、お雇い外国人たちも他所に移転した。その後は宣教師を初めとした 100 人前後の外国人が居住した。辺りでは「(築地) ホテル館」(軍艦操練所の跡地、現在の中央卸売市場の立体駐車場あたり、1868（慶応 4）年竣工、明治 5 年焼失）と新島原遊郭（新富町）が人目を引いた。

後者新島原は、「外国人と言えども…」として、明治 2 年女たちを関東一円から集めて設置されたが、辺りには宣教師、教育者が多く住まいしたこともあったからだろうか、築地ホテル館の焼失以前に閉鎖された。

当時の外国人居留地のようすは、鏑木清方の名画「築地明石町」に偲ぶことができる。



○区立明石小学校：中央区明石町 1-15

1926（大正）15年竣工、築90年ほどのやさしいデザインのコンクリート製小学校校舎。

○ガス街灯柱：中央区明石町 1-15 明石小学校交叉点

ガス街灯柱の高さは3.4mで、柱は鋳鉄製、コリント風の様式をとり、柱頭・柱身・基部からなる。柱頭のランプ部分は後に付けられたもの。柱頭の下に左右に長さ20cmの腕金が出て、柱身の下部には操型がみられる。この街灯柱は明石町の築地慰留地で使用されたと伝えられている。当時は、夕方になると点火夫が長い棒に鍵と点火具の付いたものをもって、ランプの底を開いて点灯し、夜明けには、ガスのバルブを閉じて消灯して歩いていた。

日本の都市ガス事業の始まりは、1872（明治5）年に横浜の外国人居留地であったが、東京は翌七年銀座煉瓦街の完成を機に、西村勝三、フランス人プレグランらが、芝浜崎町にガス製造所を設けて始まった。京橋から金杉橋間にガス灯85基を建て、明治7年12月に点灯したのが最初といわれ、ガス灯の明るさは当時の人々を驚かせた。

○橋梁/備前橋跡：中央区築地 3-14 先 築地川公園内、界橋（数馬橋）跡：中央区築地 3-6 先 築地川公園内

備前橋は、1925（大正14）年5月の竣工で築地川南支川にかかっていた。

界橋（数馬橋）は、昭和2年の竣工で築地川南支川にかかっていた。

○看板建築/民家：中央区築地 3-4-4、民家：中央区築地 1-4-7

○木造家屋/R 黒沢：中央区築地 2-9-8



レストラン「黒沢」

○東京メトロ築地駅

+ * * * + オフィス 地図豆 Yamaoka mitsuharu + * * * +